

健康ぷらざ

No.352

企画:日本医師会

慢性じんましん

じんましんは、蚊に刺されたようなかゆくて赤い皮膚のふくらみ(ぼうしん)*が現れる病気です。

一つ一つのぼうしんはおよそ数時間以内に消えますが、体のあちこちに繰り返して現れます。

特定の薬や食べ物、皮膚を擦るなどの直接的な刺激がないのに自然にぼうしんが現れるものは特発性のじんましんと呼ばれ、

その中でも一カ月以上繰り返すものを“慢性じんましん”と呼びます。慢性じんましんの原因はまだよくわかっていません。

治療の基本は抗ヒスタミン薬の内服で、

症状が消えてからもしばらく飲み続けることが大切です。

多くは、感染、疲労、ストレスなどにより悪化し、

また、痛み止めの飲み薬や湿布薬が影響することもありますので、

それらを避けるように注意しましょう。

それぞれのぼうしんが24時間以上続くような時には、

別の病気の可能性もあります。

まずはかかかりつけの医師を受診しましょう。

必要な場合は専門医に紹介されます。



じんましんの症状

かゆくて赤い皮膚のふくらみ(ぼうしん)が体のいろいろなところに現れます。

一カ月以上自然にぼうしんが現れる場合は慢性じんましん、それより短い場合は急性じんましんです。



* ぼうしん：膨疹